

中日青葉学園で不審者対応訓練

声掛け、道具で安全守る

相模原市の障害者施設で十九人が死亡した殺傷事件を受け、日進市の児童福祉施設・中日青葉学園で二十日、不審者への対応訓練があった。職員三十二人が参加し、不審者への声掛けや刺股を使った制圧の方法を学んだ。

(森若奈)

青葉学園のホールに、し掛けると、男は隠し持った黄色のパーカ姿の男がふらふらと入ってきた。園「うおー」と叫びながら職員が「ここに來られる襲いかかった」。

これは、ロールプレーを押し付けられた。

七月に相模原市の「津久井やまゆり園」で起きた事件では、職員三人が結束バンドで縛られるな訓練では、愛知署生活

として入所者十九人が死亡、二十四人が負傷した。青葉学園では三十一歳の約百人が生活し、発達障害がある子どももいる。

「犯人が逃げてもいい。大切なのは、児童も先生もけがをしないこと」と説明する三浦巡查長に、職員は熱心に耳を傾けた。

学園は職員の対応能力を高めるため、今後も訓練を続けていく予定。学園の防犯担当で主任指導員の竜栄貴さん(三毛)は「日頃からの訪問者への声掛けや職員間での情報共有が大切だと感じた」と話した。

訓練で、不審者役を刺股で制圧する職員たち

刺股はこのように体に斜めに当てると、取り押さえやすい。いずれも日進市の中日青葉学園で

